

躍進！体協名和野球部

第19回鳥取県民スポーツレクリエーション大会軟式野球の部が10月27・28日に、また、第41回西日本軟式野球大会（一部）鳥取県予選会が11月3日に行われました。大山町体協名和野球部が出場し、いずれの大会でも優勝を飾りました。

県民スポーツ大会は初優勝。西日本軟式野球大会県予選会は3連覇を成し遂げました。

鳥取県代表として、来年5月に滋賀県で開催される、近畿以西23府県が参加する第41回西日本軟式野球大会（一部）へ出場します。



▲がんばります！応援してください

まちのたから (46) 文化財室通信

シリーズ 「日本遺産」 外伝 四

今回は、大山の恵みの一つである自然に関するを紹介します。

信仰の山「大山」と国立公園

大山は『出雲国風土記』の国引き神話の中で「伯耆国なる火神岳」として登場します。古代より、人々による畏敬と崇拜の念を集めていたことを物語っています。そんな大山には、修験者が修行のために入山し、やがて中腹に大山寺という一大信仰拠点が誕生していきます。

江戸時代、寺が規制していたこともあり、大山は弥山禪定みせんぜんじょうの修行僧2人と先達の僧侶など2〜3人という、ごく限られた人しか登ることができない山でした。当時の僧侶が宿坊の宿泊者に「禁を犯すものは一人だに下山してはいない：（禁を犯したものは）天狗が引き裂いたのか：」と大山への入山を戒める話をしていた、という紀行文も残されています。入山禁制を守るための脅しの意味もあつたことと思われれます。

明治の神仏分離後、弥山禪定は「もひとり神事」として大神山神社奥宮

へ引き継がれ、入山規制はしばらく継続します。明治22年頃には規制も解かれ、科学者などが調査で入山するようになりませんが、一般の人々の多くは、大山に棲むという鳥天狗からすてんぐを怖れ、入山はしませんでした。明治39年に大阪毎日新聞社が募集した探検隊の大山登頂の様子が紹介されたから、次第に人々の「大山は怖いところ」という意識は薄れ、明治末には登山ブームが到来します。

寺が行った規制や人々の怖れる意識は、一方で大山に人の手が入らない環境を保ち、豊かな自然を残すことにも繋がっていました。

そして昭和11年、大山一帯は「大山国立公園」に指定されました。その後、蒜山地域をはじめ隠岐の島、島根半島、三瓶山地域が追加となり「大山隠岐国立公園」と名称変更され、さらに毛無山・仏宝山地域、三徳山地域が編入されて今に至ります。日本最大規模を誇った大山牛馬市は、国立公園指定の翌年に終焉を迎えました。この頃から、大山を取り巻く状況は大きく変わっていきます。

ダイセンキャラボク純林

キャラボクはイチイ科の常緑低木であり、高さは1〜2m程度で根元から幹と枝を横に広げて、雌雄異株で秋には雌株が赤い果実をつけます。主に日本海側の高山に分布しており、大山が南西限育成地です。

大山の8合目あたりから頂上の間にある北西側の傾斜面に約8haの純林が広がっており、昭和27年3月29日付で「大山のダイセンキャラボク純林」として国の特別天然記念物に指定されています。「特別」が付きますので、オオサンショウウオと同様、いわゆる国宝級です。

登山道の山頂周辺には、木道が敷かれています。これは、ダイセンキャラボクの保護及び踏み荒らしによる山頂部の荒廃を避けるためのもので、一木一石運動をはじめ、大山の自然を守るための運動は、今なお地元の人々の手で行われています。

（社会教育課 文化財室）



▲ダイセンキャラボク